

# 単元名「みんなきてきて！わたしたちの洗足池！」

【B地域の創生】（24時間扱い）

令和7年12月10日

授業者：笹本 佳男

## 1 単元の目標

こどもにとって身近な公園である洗足池公園の運営に携わる方（洗足風致協会）の想いを受け取り、公園の魅力をもっと引き出して地域に広める学習活動を行い、多角的な視点をもって試行錯誤しながらコンセプトに沿ったPR活動・広報活動を企画・実施し、他者と協働しながらよりよい未来社会を創造しようという思いをもてるようにする。

## 2 単元の評価規準

| 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|---|---|
| ①コンセプトの設定のために必要な情報を収集・分析したり、まとめたりするための知識・技能を身に付けている。<br>②広報物を企画・デザインするために必要な知識・技能を身に付けている。<br>③広報物を伝わりやすく発信するために必要な知識・技能を身に付けている。 | ①地域の方の想いにもとづいてコンセプトを設定している。<br>②地域性、公共性、実現性、持続可能性などを踏まえて企画を考えている。<br>③フィールドワークや、公園や地域の関係者からのフィードバック等を生かし、試行錯誤を重ねて内容を改善している。 | ①目的意識や相手意識をもって話をよく聞こうとしたり、広報活動を行おうとしたりしている。<br>②すすんで情報共有をしたり、自他のよさを生かして役割を分担したりするなど、課題に協働的に取り組もうとしている。<br>③自分たちの学習を振り返って価値や改善点を見出そうとしている。 |
| ICTの活用  |   |   |
| 情報の収集や活用のため、タブレット端末でインターネットやGoogleのアプリケーションなどを必要に応じて効果的に利用したり、他者との協働のために適切に利用したりできる。  |   |   |

## 3 本単元について

### (1) 単元設定の理由

本単元では、こどもが地域や地域の想いに対して、自分や自分たちに何ができるのかを主体的に考え、他者と協働的に未来を創造しようとする意欲を育むことをねらいとする。そのために、洗足風致協会を主な授業パートナーとし、「大きくなっても洗足池公園に遊びに来てほしい。自分たちの地域は自分たちで守り、育てていく必要がある。」という、授業パートナーからの想いを受け取るところから始める。授業パートナーからの講話を聞き、公園や周辺地域の魅力をあらためて調べ、地域の魅力を再発見して学校・地域の内外に向けてのPR活動・広報活動を行う。

## (2) 授業パートナーとの連携

### 連携先

「授業パートナー」として主に洗足風致協会と連携する。

### 依頼内容

6年生が洗足池公園の内外で掲示物や動画などを使用した PR 活動・広報活動を行うことを目的とし、主に以下の3つのことを依頼した。

- ① 洗足池公園の魅力を地域の内外に広げ、多くの人に来園してもらい公園や地域に親しんでほしいという思いがあることを児童に伝えていただきたい。
- ② 児童の広報活動に対するフィードバックをいただきたい。
- ③ 休憩所などに広報物等の設置をさせていただきたい。

※児童のアイデアによっては、洗足池図書館や勝海舟記念館との連携についても視野に入れる。

### 期待できる効果

- ① 講話を聞くことで、あらためて地域に対する関心や好奇心を抱いたり、自分たちが取り組むべき地域の課題に気付いたりでき、地域の未来づくりに参画したいという意欲の高まりが期待できる。
- ②③ インターネットでの情報収集やフィールドワークを行い試行錯誤して考えた広報アイデアが、実際にどのように受け止められるのかを確認できることで、学習活動の意義を価値付けられる。

## (3) 学習過程

コンセプトの段階では、洗足風致協会からの講話を聞き、地域内外の様々な立場の人に地域の魅力をより一層広めていくことを目的に据える。なお、本単元では「地域」を学区内に限らず、「こどもが普段生活する範囲」と考え、地域社会のための Well-being を意識したコンセプト設定を行う。こども自身が地域のためにできることに気づき、将来に向けて自らが地域をかたちづくっていかうと考える一市民としての視点を育成するため、児童が主体的に考えていくことに重きをおく。

デザインの段階では、グループごとに役割を分担して取り組むとともに、一人一人の児童が見通しをもって学習に取り組むことができるように、互いに進捗を話し合ったり、収集した情報やアイデアを共有したりして、試行錯誤を繰り返しながら広報活動に生かすことができるようにしていく。

クリエイションの段階では、学校外や地域の内外に向けて、洗足池公園の休憩所や地域の公共施設などでの広報活動を行う。単元の終末では、授業パートナーからの総括的なフィードバックを踏まえて、こどもが学習過程全般を振り返り、協働的に課題に取り組み、よりよい地域づくりに貢献できたことを価値付けて実感できるようにする。さらに地域への広報活動後には、次年度の新入生児童に向け、シルクスクリーンを活用したトートバッグ製作を行う。

(4) 本単元で扱う教科等の内容及び本単元に充てる授業時数

| 教科等名      | 本単元で扱う内容   | 授業時数 |
|-----------|--|------|
| 国語        | <ul style="list-style-type: none"><li>・目的や条件に応じてそれぞれが納得できる結論にたどり着けるような話し合いをすること。</li><li>・「話し言葉」と「書き言葉」の特徴を理解し言葉づかいを工夫すること。</li><li>・読む人が、実際に見たり、聞いたり、読んだりしたくなるように文章や図などの構成を工夫し、事物の良さを効果的に伝えること。</li></ul> | 10   |
| 社会        | <ul style="list-style-type: none"><li>・地域に関わる多様な立場の人の願いを考え、それらの意見を尊重しながらどのような地域社会をつくれればよいのか話し合い、自分たちと政治の関りを考えようとする事。</li><li>・我が国や地域社会が果たすべき役割を考え、選択や判断をしたりして適切に表現すること。</li></ul>                          | 2    |
| 総合的な学習の時間 | <ul style="list-style-type: none"><li>・大田区における地域の魅力を知り、持続可能なものとするための方法を考えて形にし、地域に提案すること</li></ul>  | 8    |

#### 4 創造的な資質・能力に関する児童の実態

本学年の児童は、昨年度、小池公園の良さを伝える動画制作や制作した動画を発信する活動を行っている。「CMで発信！小池公園」と題して、Chrome Book 端末を活用したCM作成を通して、他者に公園の良さが具体的に伝わるような工夫を考え、小池公園の良さを広める学習活動を行った。導入段階で、小池公園のことをよく知る地域の方から話を聞いたことで、見方や考え方が深まり、主体的に課題を設定したり、より深く調べようとしたりする意欲を高めることができた。さらに、地域社会のよさを具体的に伝えるためのアイデアやデザインを創出する力を養うことができた。

整理すると、基礎的な資質・能力として、次の力を育成してきたことになる。

##### 知識・技能

- ①公園に携わる人や地域の人々の立場に立ち、公園について多角的に捉える力
- ②必要な情報を収集して記録する力
- ③相手意識や目的意識をもって情報をまとめる力

##### 思考・判断・表現

- ①公園の良さを伝えるために、自分でできることを考え、相手意識や目的意識をもって伝えようとする力

##### 主体的に学習に取り組む態度

- ①自他の良さに気づき、探究的・協働的に活動しようとする力
- ②自他の考えを生かしながら課題解決に取り組もうとする力
- ③主体的に取り組み、新たな課題を見つけようとする力

本年度は、昨年度までに育んだこれらの力を生かし、本年度の副主題である「考えを交流し、新たな価値を生み出す活動」を進めていきたい。

学習を進めるにあたって、児童に行ったアンケート調査結果から次のような課題が見えてきた。

図 1

洗足池公園について  
ふだん公園をどのくらい利用していますか。近いものを選んでください。

136 件の回答

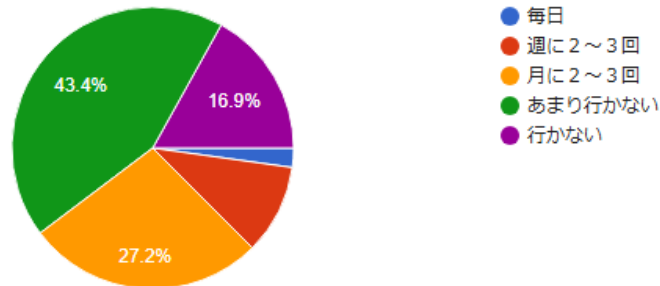


図 2

未来づくりについて

よりよい生活、よりよい未来のために、大切だと考えることを選んでください。

136 件の回答

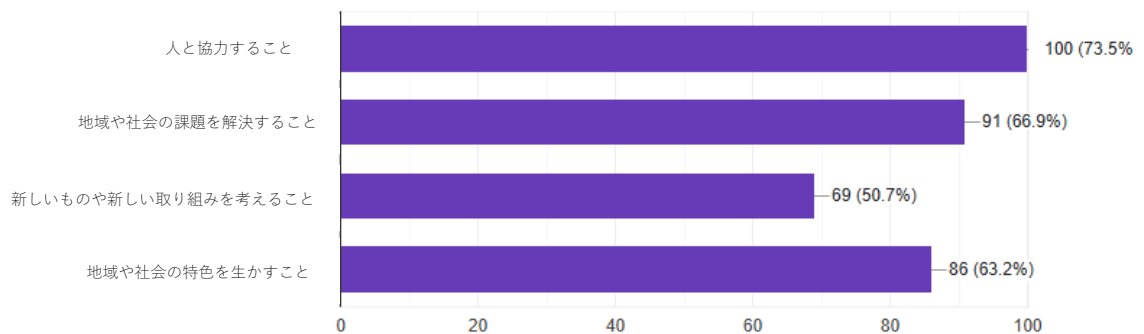


図 1 から、児童の 4 割が洗足池公園に「あまり行かない」という現状がわかる。また、図 2 より、よりよい生活やよりよい未来のために、「新しいものや新しい取り組みを考えること」を大切だと考える児童が 5 割ほどであることがわかった。これらの結果から、児童に地域社会の一員として未来を担うことを自分事として気付かせ、自分たちが取り組んでいることが未来につながっていることを実感させることに課題があると考えた。

こうした課題から、本单元では、児童が、地域社会の未来を創る一市民として、「地域を支える人の想いをもとに、情報を受け取る相手の立場を意識してデザインする力」をさらに伸ばせるようにしていきたい。地域や学校の内外で広報物を目にする人の意識に立ち、より効果的に洗足池公園や地域の魅力を伝えるデザインとなるように学習を進められる機会を意図的に設定する。地域社会の課題を自分事として捉え、自他や地域社会のための Well-being を意識して協働的に課題に向かう児童の育成を目指す。

## 5 目指す児童像

分かった！できた！（知識、技能）

- ・目的意識と相手意識をもってコンセプトを設定し、地域の創生への取組に必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付けている児童

ひらめき・かたち・リニューアル（思考力、判断力、表現力等）

- ・コンセプトを踏まえて、効果や実現可能性、持続可能性等の視点を持ちながら取組の内容や方法を試行錯誤する児童

わくわく！チャレンジ！（学びに向かう力、人間性等）

- ・企画提案やその実現に向けた準備に自分と他者のよさを生かして協働的に取り組む児童

## 6 研究主題に迫るための手だて（単元を通して）重点項目（協議の視点）

### （1）洗足風致協会から公園や地域に抱く想いを聞く機会の設定

（分かった！できた！① ひらめき・かたち・リニューアル①）

本単元では、地域社会の地域性や公共性、持続可能性について気付き、地域の価値を創造しようとする態度を育む。そのために、こどもに明確なコンセプトをもたせて広報活動に臨ませたい。そこで、本単元は洗足風致協会から依頼を受けるかたちで講話を聞くところから始める。講話では公園や地域の歴史、現状、公園に携わる方々の想いを語っていただく。講話を受けて、地域で活躍する人の想いを受け止め、地域で生活をする自分たちの想いについても話し合い、自分たちにできる役割を見付けて課題を立てていく。なお、講話の前にはアンケートを行う。結果を風致協会と事前に共有することで、児童が洗足池公園について知らないことをお話いただき、児童の興味関心を引き出せるようにして、明確な目的をもった情報収集やコンセプト設定につなげていけるようにする。

### （2）ターゲットを意識した広報活動を探究・創造していくための機会や場の設定

（分かった！できた！② ひらめき・かたち・リニューアル②）

洗足池公園を中心として周辺地域を活性化していくにあたり、伝わりやすい広報活動を行うための知識・技能が高まるように、どのような相手がどのような場所で広報物を目にするのか、多角的に考える機会を設ける。そのために、洗足池公園に来ている人や、公園に来てほしい人といった、広報物のターゲット層と、どこで広報すればよいのかを明確にするための機会を設定した。公園や地域の魅力を発信する上で、公園の歴史、現状、公園管理に携わる人の思いを明確にさせた上でコンセプトを決められるようにし、効果的な広報物をデザインできるようにしていく。

### （3）試行錯誤と児童の企画を価値付けてもらう機会の設定

（わくわく！チャレンジ！）

クリエイションの段階に先立ち、洗足風致協会の方から、児童の広報物に対し、コメントをいただく時間を設ける。コメントを受けることで広報物をよりよく効果的なものにするため修正し、より適切に広報物を仕上げることに繋げていく。また、単元の終了時には児童の制作物について価値付けていただき、自分たちの学習活動に達成感を感じられるようにするとともに、地域社会への関わりを実感したり、自分たちの取り組みによって、地域社会がよりよくなることを感じられたりするようにする。そして、これからもよりよい未来社会を自分たちで創造していこうという思いをもてるようにする。

## 7 単元指導計画（24時間）

|                       | 時                | ○主な学習活動<br>◆創造的な資質・能力を育成するための手だて  | 評価規準<br>(方法)   |                         |
|-----------------------|------------------|---|--|-------------------------|
| コ<br>ン<br>セ<br>プ<br>ト | 1                | ○洗足池公園についてのアンケートに答える。<br>◆6年生に対し協会から公園の魅力を広げてほしいという依頼があったことを伝え、公園について知っていること、知らないこと、知りたいことについてFormsでのアンケートを実施する。                          | 主①   |                         |
|                       | 2                | ○洗足風致協会事務長守屋卓浩さんからの講話を聞く。<br>◆講話を通し、地域の想いを受けとめるようにする。   | 主①<br>思判表①   |                         |
|                       | 3                | ○依頼を受け、洗足池公園とその周辺について何を調べるのかを考え、フィールドワークの計画を立てる。<br>◆授業パートナーの講話を通して、自分たちにとっての課題（目的意識）を捉えられるようにする。   | 知技①<br>思判表②  |                         |
|                       | 4<br>5           | ○洗足池公園や周辺のフィールドワークを行い、地域の魅力を収集し、記録する。<br>◆調べる場所ごとにグループをつくり、情報を収集・記録させる。   | 知技①  |                         |
|                       | 6                | ○フィールドワークで得た情報を共有する。<br>◆付箋を活用して、フィールドワークで得た情報を共有できるようにする。  | 主②   |                         |
|                       | 7                | ○フィールドワークで得た魅力の伝え方を考える。<br>◆どんな内容を、誰に対し、どこで、どういった手段で伝えると効果的なのかを考えさせ、課題別にグループをつくる。<br>◆1度のフィールドワークでは足りない情報があることに気付かせ、次回のフィールドワークの計画を立てさせる。 | 知技①<br>思判表②  |                         |
|                       | 8<br>9<br>10     | ○2度目のフィールドワークを行い、不足している情報を収集する。<br>◆課題に沿った情報収集を行えるようにする。  | 知技①  |                         |
|                       | 11               | ○グループごとに情報をシェアする。<br>◆個人で得たものを書き出してグループ内で共有する。そのために、オクリンクの写真フォルダ機能で画像を共有させたり、グループごとにホワイトボードやマグネットを使用させたりして、情報の整理をやすくする。                   | 知技①<br>主②  |                         |
|                       | 12               | ○情報を置かせてもらう店舗や公共施設などに向けてお願いの手紙を書く。<br>◆児童が主体となって広報活動を行っていることを実感させる。   | 主①<br>思判表②   |                         |
|                       | 13<br>(本<br>時)   | ○どのような内容や媒体が、広報でのターゲット層や広報の場に適しているのかグループで話し合い、情報を取捨選択する。<br>◆話し合ったことをグループ間で共有する機会を設定する。<br>◆進行状況次第では、本時から広報物の作成を開始する。                     | 思判表①<br>知技②  |                         |
|                       | デ<br>ザ<br>イ<br>ン | 14<br>15<br>16<br>17  | ○それぞれのグループで、広報物の作成を進めていく。<br>◆校正や推敲を重ねさせコンセプトからずれないようにデザインするようにする。 | 思判表②<br>知技②・<br>③<br>主② |

|                                 |    |  |      |
|---------------------------------|----|--|------|
|                                 | 18 | ○洗足風致協会から広報物に対するコメントをいただく。<br>◆事務長の守屋さんに事前に広報物を渡し、内容を確認していただく。コメントをいただき、児童に伝える。                                      | 思判表③ |
|                                 | 19 | ○コメントを受け、修正作業を行う。<br>◆フィードバックを受けてから改善案を考える。  | 思判表③ |
| ク<br>リ<br>エ<br>イ<br>シ<br>ョ<br>ン | 20 | ○地域に向けて発信する。<br>◆自分たちのアイデアが活かされることを実感できるようにする。   | 主③   |
|                                 | 21 | ○学習活動のふりかえりを行う。<br>◆授業パートナーから総括的なフィードバックをいただき、学習の振り返りを行わせる。単元全体をふりかえるようにする。協働的に課題に取り組み、よりよい地域づくりに貢献できたことを価値付け、実感させる。 | 主③   |
|                                 | 22 | ○来年度の新1年生に対し、シルクスクリーンを使用してデザインしたトートバッグを製作するため、アイデアを考える。<br>◆校内でも活動の形を残し、これからの小池小学校に伝えていくためにトートバッグの製作の機会を設定する。        | 思判表② |
|                                 | 23 | ○デザインの投票を行う。<br>◆Forms でのアンケートにて、デザイン案から数種類代表を決めるようにする。  | 思判表① |
|                                 | 24 | ○トートバッグを製作する。<br>◆校内でも活動が認められたことを実感させ、価値付けるようにする。  | 主③   |

## 8 本時の指導 (13/24)

### (1) 本時の目標

地域性、公共性、実現性、持続可能性などを踏まえて、洗足池公園とその周辺地域の魅力を広める企画を考えることができるようにする。

### (2) 本時の展開

|    |  |  |
|----|--|--|
|    | ○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応   | ◇指導上の留意点 ★評価 (評価方法)<br>◆創造的な資質・能力を育成するための手だて   |
| 導入 | ○単元のめあてを確認した上で、本時のめあてを設定する。<br><br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">グループで話し合い、広報活動で伝えたいことを決めよう。</div><br>○本時の学習活動の流れを確認する。  | ◇本時までには公園や周辺の情報を収集したり、グループごとに課題を設定して広報活動の準備を進めてきたりしたことを確認する。   |
| 展開 | ○グループごとに、収集した情報を整理する。<br>・フィールドワークでは幼稚園生向けに遊べる場所が見つかっていたね。<br>○整理した情報から、広報物の内容を伝える相手や方法・手段に適したものとなるように取捨選択していく。<br>・自分たちは△△な人に魅力を伝えたいからパンフレット制作をしよう。<br>・△△にポスターを置いてもらうからこんな構成はどうだろう。<br>○グループ間でどのように広報活動を考えているのか共有する。<br>・あのグループは□□な取り組みをしていたよ。自分たちの広報物にもそのアイデアを取り入れたらどうだろう。<br>○良いアイデアを取り入れ、広報活動のデザインを固める。<br>・あのグループのアイデアを取り入れたらこんな□□ができそうだよ。 | ◇グループごとにホワイトボード (大・小) を机上やオープンで使用させる。収集した情報をワークシートに付箋で整理したり、新たなアイデアをマーカーで書き込んだりさせる。<br>◆ワークシート (ダイヤモンドランキング) や付箋を使用することで、情報の取捨選択を行いやすくする。<br><br>◇広報物をより良くするために、取り入れられそうなアイデアを共有させる。<br>◆各グループで相手意識をもって工夫している点や、選択している方法や手段を踏まえてデザインしている点を取り上げて紹介する。<br>◇時間があれば広報物の作成に取り組み始めさせる。 |
| 終末 | ○各グループの進捗を確認し、次の時間から取り組むことを確認する。<br>○めあてを達成するために努力したこと、工夫したこと、次回に生かしたいことを振り返り、ワークシートに書き込む。   | ★思考・判断・表現②<br>地域性、公共性、実現性、持続可能性などを踏まえて企画を考えている。(ワークシート)  |

## 「おおたの未来づくり」と提案授業のかかわりについて

### 1 おおたの未来づくりの目標

未来を創造するための見方・考え方を働かせ、実社会で活躍する様々な人などと連携して、「探究」と「創造」を往還しながら発展していく学習過程において、よりよい未来をつくるための創造的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) ものづくりや地域の創生に必要な知識及び技能を身に付けるようにする。
- (2) 試行錯誤して、地域の社会や人々の「Well-being」につながるものや取組を発信することができるようにする。
- (3) 実社会で活躍する様々な人などとの関わりを大切にするとともに、自分や他者のよさを生かして主体的に取り組み、よりよい未来を創造しようとする態度を養う。

### 2 創造的な資質・能力とその素地との関連性

| 知識・技能  | 思考力・判断力・表現力   | 学びに向かう力・人間性等  |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「内容」に関する知識・技能<br/>対象とする分野によって変化<br/>する<br/>企業・団体等の活動<br/>内容にかかわる社会情勢<br/>プログラミング技術 等</li> <li>・「方法」に関する知識・技能<br/>対象を限定しない汎用的な技<br/>能<br/>対話 情報収集<br/>思考ツールの活用<br/>プレゼンテーション作成 等</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「Well-being」の視点をもった<br/>検討</li> <li>・コンセプト<br/>相手意識をもった、情報の整<br/>理・分析</li> <li>・デザイン<br/>実現可能性を含めた検討・企<br/>画・計画作成 等</li> <li>必要に応じた役割分担・支援<br/>要請・進行管理 等</li> <li>・クリエイション<br/>ニーズに応じた修正・改善<br/>効果を考えた工夫 等</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会の人とのかかわりを大<br/>切にする態度</li> <li>・学び合う友達と協力すること<br/>でより良いものを生み出そう<br/>とする態度</li> <li>・学習課題解決に向けて粘り強<br/>く取り組む態度</li> <li>・自己評価や調整・修正等を行<br/>いながら進んで活動する態度</li> </ul> |



|  |  |  |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報を収集するための知識及<br/>び技能</li> <li>○情報を整理し考えることにか<br/>かわる知識及び技能</li> <li>○相手に分かりやすく伝えるた<br/>めの知識及び技能</li> <li>○各教科の特性にかかわる知識<br/>技能</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題を発見する力</li> <li>○既習事項や収集した情報、多<br/>様な考えを整理して問題の解<br/>決策を考える力</li> <li>○問題を発見し、解決策を考え、<br/>実行する等を繰り返して、問<br/>題解決を図る力</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○対話を大切にし、すすんで情<br/>報を収集しようとする態度</li> <li>○自分や他者のよさを生かしな<br/>がら主体的に取り組もうとす<br/>る態度</li> <li>○学習を振り返って問題発見・<br/>解決につなげていこうとする<br/>態度</li> </ul> |
| 創造的な資質・能力の素地となる力   |  |  |

### 3 創造的な資質・能力の素地につながる取り組み

#### 豊かな体験活動

- 地域等を中心とした学校外での活動を十分に経験させる
- 教員以外の多様な大人と触れ合う機会を経験させる
- 社会に対する興味・関心や肯定的な感情・感覚を養う

#### 自己肯定感・有用感の育成

- 自分には力があり、努力することで困難を解決できるという確信をもたせる
- 主体性に活動する姿勢や挑戦する意欲を養う

#### 認め合い・協働できる学習集団作り

- 児童がお互いに関心をもち、かかわりあう場
- 挑戦や疑問が評価される場      ○話し合いによる合意形成の機会
- 児童が自分の力を十分に発揮するために安心感のある集団を作る